

第6回徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

と き 平成28年1月27日（水）午後3時00分から午後4時30分

ところ ホテル千秋閣（7階 鳳の間）

1 開会

2 中心市あいさつ

（徳島市第一副市長）

皆さま、こんにちは。徳島市の副市長の多田でございます。今日は、原秀樹徳島市長が東京に全国市長会の関係で出張しておりますので、代わってごあいさつさせていただきます。

中村会長様、そして藤井副会長様をはじめ、委員の皆さまには、公私とも大変お忙しい中、「第6回徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン懇談会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、大幅な人口減少と急速な少子高齢化問題が深刻化する中、地方圏への人の流れを創出し、安心して暮らせる地域の形成を掲げる「定住自立圏構想」は、地方圏への人口定住を促進する上で、非常に有意義な施策であると考えております。

このような中、徳島東部地域におきましても、徳島市と近隣の11市町村との間で、定住自立圏共生ビジョンを策定し、様々な連携事業に取り組んでいるところでございまして、策定から5年を迎える中、委員の皆さまのご指導・ご協力をいただき、概ね計画どおりに実行している状況でございます。

また、各市町村におきましては、今年度、地方創生に係る「人口ビジョン」と「総合戦略」を策定し、人口減少対策への取組を推進しているところでございますが、人口減少の克服には、自治体間の連携による取組も必要であると考えております。

今後につきましては、新たな共生ビジョンの策定を踏まえ、徳島東部圏域の継続的な発展、さらには、圏域住民の皆さんの住み慣れた地域での幸福な暮らしの実現につながるよう、これまで以上に徳島東部圏域12市町村の協力関係を進め、共生ビジョンに掲げた取組を着実に実行してまいりたいと考えております。

委員の皆さまにおかれましては、各分野におきまして、本圏域の定住自立圏構想の取組に、今後も引き続きご協力を賜りますようお願い申しあげまして、ごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

2-2 会長あいさつ

（会長）

ただ今紹介いただきました中村でございます。会長を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

さて、地方を取り巻く環境は、地方分権の進展、少子高齢化の急速な進行、あるいは行政ニーズの多様化等によりまして、急激に変化をしているところでございます。

昨年末、県が発表いたしました直近の国勢調査の速報によりますと、県内の人口は76万人

を割りまして75万6,000人余りとなりました。前回の2010年の調査より、2万9,428人減少ということでもあります。毎年約6,000人の人口が減っているという状況でございます。

このような深刻な状況の中、人口減少を克服し、地方創生を成し遂げるため、各自治体におきまして、「まち・ひと・しごと創生法」の施行に基づき、様々な取組が進められているところでございます。その地方創生との関連の中で、定住自立圏の持つ役割の重要性がますます増してきたように感じているところでございます。

定住自立圏構想は、広域行政の新たな連携の形として、様々な問題に対しまして、圏域間で補完し合いながら広域的に住民サービスを行っていくという広域連携の発展版でございます。地域行政のあり方として極めて重要な、これからの地方における生き残り戦略のひとつでもあらうかと思われま。

本日の懇談会は、今後ますます厳しくなると予想される地域の現状を踏まえ、自治体独自のサービスだけでなく、徳島東部地域の広域的なまちづくりを進めるために、どうあるべきか、あるいは、どのようなことをすべきか、という観点から進めていかなければいけないと思えます。

委員の皆さまにおかれましては、それぞれご専門の視点および立場から、積極的なご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

3 議事「徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの取組状況について」

- (事務局) **資料1** 定住自立圏形成協定に規定する取組(20項目)及び連携市町村一覧及び、
資料2 徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの取組状況(平成27年度)
に基づき説明。
※**資料3** 徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの取組状況(平成26年度)
は議事の都合により配布のみ。

(会長)

ただいま、事務局より「共生ビジョンの取組状況」等について、ご説明いただきました。

これにつきまして、ご意見、あるいは、圏域の連携全般につきましてのご意見等がございましたら、お受けしたいと思います。

(委員)

少しご質問しますが、施策「圏域内への企業誘致の推進」の「企業誘致の促進」の中で、「コールセンター等雇用創出効果の高い企業を誘致し、周辺市町村を含めた雇用拡大を図った」と記載しています。企業メリットは別にして、どれだけの企業が誘致されたのか、具体的な説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

企業誘致につきましては、徳島市の方で企業誘致奨励制度を通じて推進しているところでございます。その対象となる事業といたしましては、コールセンター、データセンター、事務処理センター等の情報通信関連事業でございます。また、企業規模にも関わってきますが、1年

以内に5人以上の地元雇用をすることを条件に、新規雇用1名につき定額の雇用奨励金の助成を行っています。その他、施設整備費についての助成等、企業誘致を奨励する様々なメニューがございます。

(委員)

何社企業誘致したかについては分からないのですね。金融機関等に企業誘致について尋ねたら、通常は、今期は何社誘致したという具体的な答えが返ってくるのですが、今の説明は、企業誘致の支援の拡大を図った内容のものであり、少し具体性に乏しいように思いました。

(会長)

「まち・ひと・しごと総合戦略」の中でも、雇用の場の拡大は、若者の地域外流出を防ぐために非常に重要な項目となっています。そこで、雇用の場の拡大手段の1つである、外からの誘致については、ぜひ、真剣に考えていただきたいと思います。

それから、私の方からお聞きしますが、「移住・長期滞在推進事業」について、神山町の取組のことは分かったのですが、上勝町や他の地域でもかなり積極的に移住者等の誘致をしていますね。圏域全体で、どの程度、移住が進んでいるかについて分かれば教えていただきたいと思っています。

(事務局)

移住について、定住自立圏の取組実績としましては、神山町しか把握しておりません。

(委員)

病児・病後児保育事業が11市町村で実施され、非常にありがたく思っています。ところで、先ほど、あるお母さんから、徳島市内で事業を実施している病院の先生が体調を崩され、結構長期にわたり休まれているということをお聞きしたのですが、そこで事業の方は実施されているのでしょうか。

(事務局)

その件につきましては、また確認いたします。

4 議事「現徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの変更について」

(事務局) **資料4-1** 徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン(変更案)

に基づき説明。

※**資料4-2** 徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン連携事業一覧(変更案)

は議事の都合により配布のみ。

－意見なし－

5 議事「次期徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの策定について」

(事務局) **資料5-1** 第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン(案)

に基づき説明。

※資料5-2 第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン連携事業一覧(案)
は議事の都合により配布のみ。

(会長)

ただいま、事務局よりご説明いただきました。

このことにつきましてご意見がございましたら、お聞きしたいと思います。

(委員)

次期共生ビジョンの案が確定するまでのスケジュールはどのようになっていますか。

(事務局)

今日のビジョン懇談会の後、2月中旬に予定しております12市町村の首長で構成されます推進協議会を経て、最終的に確定したいと考えております。

(委員)

昨年度、勝浦町でニュースポーツ大会の開催を企画した際、勝浦町は「スポーツ大会共同開催事業」では、定住自立圏の連携に加わっていないことから、共同開催することはできないと言われたようです。そこで、ある組織の住民の方から連携に加わりたいとの意向をお聞きしましたが、共生ビジョンの計画期間の途中では難しいと思い、来年度、新たな共生ビジョンの策定に向けての見直しがあるので、その時にということでお話しさせていただきました。

ところが、次期共生ビジョンの案を見ますと、勝浦町が手を挙げなかったからなのかもしれませんが、「スポーツ大会共同開催事業」の連携市町村に勝浦町が入っていません。今、勝浦町は、ニュースポーツを推進していることから、できれば連携に加わりたいと思いますが、新たに要望することはできるのでしょうか。

(委員)

私もちょうど小松島市のスポーツ推進委員をしている関係で発言させていただきますが、先ほどのお話にありましたように、「スポーツ大会共同開催事業」の連携7市町の中に、上勝町が入っているにもかかわらず隣の勝浦町が入っていないことについて、市の行政の方に質問したことがあります。そこでは、7市町の教育委員会の方で決めたことでしたというのですが、それを聞いて、おかしいと感じました。両町とも入っていれば問題なかったのですが。

また、平成27年度のニュースポーツフェスティバルは上勝町で開催されました。しかし、隣の勝浦町では、住民は参加できるが開催はできない状況であるということを補足説明させていただきます。

定住自立圏が市町村間の交流を目的とするならば、隣接している市町村が事業に参加するのは当然のことであり、1つの市町村を飛び越えて実施している現状は、少し疑問視するところがあるということを述べさせていただきます。

(事務局)

次期共生ビジョンの策定にあたり、手続きからご説明させていただきますが、まずは、現共生ビジョンの変更・追加の有無について確認をするため、各近隣市町村に意向調査を行いました。意向調査を行った段階では、この件につきまして特に意見が出ず、そのままの状況でこの次期共生ビジョンの案に至っているということでございます。

なお、勝浦町が連携に加わるためには、共生ビジョンにその旨を追加しなければなりません。そのためには形成協定の変更が必要となり、議会の議決を要することになります。

そこで、次期共生ビジョンにつきましては、まずはこの案で進めさせていただき、毎年所要の変更もできるということになっておりますので、そうした機会に検討させていただきたいと考えております。

(副会長)

確認ですが、次期共生ビジョンには、すぐに反映できないということよろしいのでしょうか。

(事務局)

そうなります。

(会長)

協定の変更は手間がかかるかもしれませんが、徳島東部の12市町村が、今後、発展し、結束を高めていくためにも、もっと柔軟に対応できるよう考えていただきたいと思います。

(事務局)

先ほど説明いたしましたように、各近隣市町村に確認をした上、最終的にこの案ということでお示ししているところでございます。しかし、今回のビジョン懇談会で、このようなご意見があったということ踏まえ、今後、関係自治体とも協議をさせていただきたいと考えております。

(委員)

いつも観光分野について発言させていただいていますが、今回の懇談会は、この事業が立ち上がって5年が経過し、次の5年をどうするかについて考える中間点として、非常に重要なポイントになるのではと思っています。当初、この懇談会が立ち上がったときは、たくさんの観光事業が取り組まれるということで、明るい希望を持ち、5年後には劇的に変わればいいなということを発言させていただきました。そのような中、先ほどの説明では、5年間、順調に進んでいるとのことでしたが、それでは5年前と比べて一体何が変わったのかということ、この懇談会で検証していくべきではないかと思えます。そして、うまくいっている事業はもっと拡大していく、逆にうまくいっていない事業は精査して次に繋げるということ、次の5年間のビジョンに反映していくことが重要ではないかと思えます。このまま進んでいくと、良いのか悪いのか分からないまま同じことの繰り返しにならないかと、若干、危惧しています。私もひとつひとつの事業結果を聞いている訳ではありませんが、うまくいっている事業もあれば、うまくいっていないというか効果が見えにくい事業もあるので、ぜひ、そのあたりを見直して

いただきたいと思います。

また、具体的に見ますと、「情報発信・PRを一体的に行う」との記載がありますが、この5年間で、このエリアの観光分野をどのようにして振興させていくかについての各市町村の担当者が集まった会を、何回開催し、また、その会がどのような内容だったのか、さらには、1回決定したことをただ実行するだけではなく、時期をみて途中で見直すような機会があったのかということをお聞きしたいと思います。

それから事業内容ですが、レンタサイクルを使ってもらったり、街歩きのパンフレットを作成して観光客が滞在しやすくするとか、スタンプラリーとか、すでに来てもらった観光客の満足度を高める事業は結構多いのですが、どのようにして、この徳島東部地域に観光に来てもらうかということをもっと考える必要があるのではないかと思います。連携事業名に観光開発という言葉を使っていますので、新しく観光を開発して、そこにどのようにして人を呼び込むのかということまで具体的に踏み込んでいかないと、交流人口は増えないと思います。

そのために、地域間の連携をうまく取ること、また、観光事情に精通した、ある程度専門性を持った人が中に入りプロモーションを行うなど、レベルの高い施策の実施をお願いしたいと思います。

(会長)

私も同じような考えを持っています。日本の人口が減り、ゼロサムまたはマイナスサムと言われる中、その一方で、去年の北陸までの新幹線の延伸により、金沢・富山に観光客が集中し、さらに、今年の3月には北海道新幹線の開通により、函館周辺に観光客の集中が見込まれるように、厳しい環境の中ではありますが、四国、そして徳島東部12市町村へいかにして観光客を招くかということを考えていかなければならないと思います。

また、このような状況において、外国からの観光客が年間2,000万人に近づいて来ているということからも、外国人観光客をどのようにして呼び込むかについての視点も重要になってくると思います。

いろいろ難しい面があるとは思いますが、ここで大切なことは、今日欠席している神山町の大南さんがいつも言っている「バックキャストिंग」の考え方、つまり、5年先、10年先のあるべき姿を想定し、そこから逆算して、今、何をすべきかという観点から、インパクトの高い行動計画を立てることが必要だということです。

そのような中、「にし阿波」は、結束することで成果を上げており、外国人観光客も呼び込んでいると伺っています。一方、徳島東部地域は立地には恵まれています、どちらかというインパクトがもう一つという感じがしますので、頑張ってくださいと思います。

(委員)

1点言い忘れていたことがあります。平成27年度の実績の中で非常に良いと思ったのは、小学校の親子を対象に東部圏域を巡るツアーを実施したことであり、応募者数が非常に多く、抽選に漏れた方もたくさんいらっしゃるということで、これは提案ですが、地元の方が地元を知るツアーを、もっと増やしていただきたいと思います。今の、東部圏域を巡るツアーの定員35人で3回の実施というのは少ないので、例えば、バスの補助制度などを作って、安く参加を募るような、そういった切り口で、次の5年間、観光における地産地消を推進する事業を

立ち上げていただきたいと思います。

(副会長)

観光のことについて、徳島の若い女性のひとつの意見として聞いていただきたいと思います。スタンプラリーなどの連携事業をたくさんしていただいています。その景品があまり魅力的でないものが多いです。例えば、今までよく見てきている農産品・特産品などは、正直、使い古された感があり、この景品では、イベントに参加しようという気にはなれないところがあります。各市町村の魅力を伝えるものは他にもあると思います。食べ物にこだわる必要はないと思いますので、もっと視野を広げて、各市町村の魅力、すなわち、人を呼べるものは何だろう？ということ、各担当者、あるいは民間の方と話し合いながら、そこで繋がりを持つことができれば、若者がとてもウキウキするようなイベントが考案できるのではないかと思います。

(事務局)

観光事業について、行政間での協議が何回行われたかに関しましては、本日は資料を持っておりません。なお、ご評価していただいた東部圏域を巡るツアーにつきましては、圏域内の交流を深めるとのことで、年3回実施させていただきました。応募者も非常に多く、住民がもっと地元の魅力を理解していただく必要性を踏まえ、今後、より発展的に検討してまいりたいと思っております。

加えまして、県外等への情報発信という形では、有楽町で観光キャンペーン等を行いました。こちら、徳島市の阿波おどりのキャンペーンと合わせまして、今後、より一層進めてまいりたいと考えております。

また、スタンプラリーについては、今後、中身を検討してまいりたいと考えております。

(委員)

藍は、これまでは、殺菌・抗菌効果があると言われていましたが、去年、NHKで藍を天ぷらにして食べるということが取り上げられ、その放送がとても評判良かったということを知っています。

昔から「医食同源」という言葉がありますが、漢方の薬局には、藍から作られたいろいろな食べ物のほか、藍からできた飴、お茶、さらにはうがい薬などがあります。私のところも藍を染めるだけではなく、できればお客さんに食べていただき、実は、藍は、美容と健康に良いということを啓発していきたいと思っています。

(委員)

連携等について一言申し上げます。

われわれの農業共同組合につきましても、ヒト・モノ・カネの流れが共有でき、スケールメリットが生まれ、さらには、財務的な余裕が出てくることから、去年の4月に松茂と大津で合併を行いました。ただ、調整が難しい部分もあり、連携で事が足りるなら合併しなくてもよかったのですが、連携では目的が達成できないということで、合併したわけでありました。

連携により行政がひとつになるという意味では、定住自立圏は、県下に6つある組合をひと

つにしようという話が出ている農業の形とよく似ているのではないかと思います。ただ、農業に関しましては、西と南でそれぞれ特徴を持った農業を展開しており、また、考え方も農業者によって違うことから、JAがひとつになり大きくなれば何でもできるという話にはならないと思います。

また、定住自立圏にも言えると思いますが、連携によるやりやすさというものは、それぞれの行政によっても温度差があると思いますし、そのあたりを考えて次の段階に進んでいくべきではないかと思っています。

(委員)

今日、色々なお話を聞きながら感じたことは、この徳島東部地域定住自立圏というのは、名称にもありますように、定住を促進して、いかに自立していくかが、その目的ではないかと思っています。

ただ人口につきましては、日本全体の人口減少にあらがって増加させるということはかなり困難であると思いますし、この徳島東部地域も2030年には定住人口の合計が38万8,000人、2040年ですと34~35万人まで減っていくという推計になっています。

先ほど、会長の方からお話がありましたけれども、神山町さんがこれだけ移住促進ができているのは、大南さんを中心に十数年前から移住・交流センターを立ち上げ、地道に人を誘致するという、その工夫が功を奏しているからだと思います。

実際に徳島市内でも、周辺部は20~30年前と比べて、宅地化されて人口が増える一方で、空地や耕作放棄地も増えていますので、移住促進にあたり、そのような場所を有効活用するとともに、インターネットやICTを使って情報発信していくことが非常に大事ではないかと思っています。特に徳島県は、今や関西広域連合の一員でもありますし、長期滞在的にこちらで過ごしていただく方法もいろいろとあると思います。

また、先日、日経新聞に出ていました都道府県ごとの移住者数、受入数によりますと、四国でも徳島県は50数名で、そのうち、最近サテライトオフィスでお馴染みの神山町、上勝町及び美波町は若干数字が増えていますが、後は非常に少ないです。同じ四国でも高知県は確か600人、香川県は700人と、桁が違います。一番多かったのは鳥取県だったと思いますが、そういう所を参考にしながら、移住促進について工夫していただきたいと思っています。

(委員)

少子高齢化が急速に進む中、特に山間地域における医療提供体制がより一層悪化している現状から、国の方でも、地域医療構想のもと、各地域における医療体制、提供体制、特に病床数を含めた適正化が行われています。

一方、徳島県は病床数や医師の数は非常に多いのですが、地方、特に山間地域では依然恩恵を受けていないことから、市民病院としては、高齢化が非常に際立っている勝浦町、上勝町を対象に連携事業を進めています。昨年夏には、私を含めた3人で勝浦町に行き、そこで、勝浦病院の院長さんとも協議をしまして、今後の連携のあり方、一方的に提供するというのではなく、相互的に必要なものを補うという形で行うということを話し合いました。

なお、現在実施している連携事業につきましては、1つは、医師不足が非常に大きな問題となっていることを踏まえ、勝浦町と上勝町で高度医療の提供ができない状況の患者さんに対し、

紹介という形で市民病院に来ていただいて対応しているところであります。

もう1つは、地域での医療的な問題を少しでも理解し実践していただけるよう、現地に医療従事者を講師として派遣して、研修を行っているところであります。

連携につきましては、現在5年間が終わりましたけれども、次のステップとして、より充実、強化といった形で取り組んでいきたいと思っています。

(委員)

今、高齢化社会でありますので、私どもの方は、老人クラブでは、若い60代の方に80代の方の面倒をみていただくようお願いするとともに、高齢者が引きこもりにならないようにサロンのような場所を設けるなど、高齢者に対する地域活動に取り組んでいます。

(委員)

定住自立圏の連携事業により、本当に定住人口が増えていくのかなという思いはあります。北島町でも交流人口を増やすことと定住人口を増やすことを、どう結びつけたらいいのか悩んでいるところではありますが、やはり、そこに住む人たちが、住んでいることに満足してもらうことが重要ではないかと思えます。

先ほど、ある委員さんからも言われましたが、私も、県内をバスで巡るツアーは非常に良いことだと思いました。もっとPRして、その回数を増やしていただきたいです。このように、魅力発信、地元を再確認することが大事であると思いました。定住自立圏では観光系の予算が非常に多いこともありますので、地に足をつけて、人が増える事業をどれだけできるかということがとても重要であるということを実感しました。

また、以前、県が東京で退職された人を徳島に招いて定住していただくということを考えているという報道があったと思いますが、それについては皆さんどうように感じているのでしょうか。例えば60歳、70歳を超えて、徳島に縁がある方や徳島に来たいという方を受け入れることによって人口を増やしていくことが、果たして良いことなのか、疑問を感じているところです。

(会長)

これにつきましては、2060年に1億人の人口をキープすることが国家目標となっているということがあります。昨日、商工会議所の会頭さんを招きまして「まち・ひと・しごと」についてのシンポジウムを実施しましたが、そこでも人口の維持が最終目標になっていることについての疑問が出ました。人口は1つの指標ではありますが、そこに住む人の満足度とか、豊かさをより重視すべきではないかとの結論に至ったと思えます。

とはいうもの、本四架橋ができた、住民は利便性が増えて買い物に行くなど楽になった、その一方で、地域の流通業者は取り残され衰退していくとなると、持続可能な発展は期待できなくなります。本県にとっては、住民の満足度は高いけれども、持続的な発展はできず産業が衰退していくことについて、これでいいのかという話にもなってきます。

結局、いくら行政が「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定して頑張っても、子どもを産み育てるのは家庭であり、また、その価値観において、学生の40%は恋人がほしくないという統計が出ている社会では、人口が増えるはずがありません。一方、企業も海外にどんどん進出

して行くので、国内での働き場所が増えません。このような状況において、行政が人口目標を達成することは並大抵のことではありません。非常に難しい問題であり、企業・ひと・家庭みんなで、国の施策や地域の施策に合意形成できるような雰囲気づくりをしなければ、目標は達成できないのではないかと感じます。

(委員)

徳島市の方から、実績についてのご報告をいただきましたが、先ほどもご意見がありました。もう少し具体的な報告をしていただければよかったです。というのは、私は上板町に住んでいますが、連携にかかる取組は本当に進んでいません。他の市町村は、ここまで進んでいる、これだけやっているということを見ていただき、上板町もそのような方向に向かっていただきたいと思いますので、懇談会を通じて具体的な取組状況が分かればありがたいと思います。

それから、環境につきましては、100年振りに台湾で雪が降ったなど、気象条件が変化しているということをよくお聞きしますが、これは地球温暖化の問題がかなりのウエイトを占めていると思います。今後、ますます地球温暖化が進むにつれ、異常気象も増えると思いますので、この問題は行政が積極的に関わって対応していく必要があるのではないかと思います。

また、私がかねてより、徳島市の方々が中心となって作っていただいている小学校の「こどもエコチャレンジノート」が、非常に立派なものであると思っていました。ただ、作成から5年経つので、次の段階へ入ってほしいと思います。今は小学校の低学年用のものですので、今度は高学年用のものを作っていただきたいと思います。

さらに、環境についての初歩的な取組にごみの分別があります。小学生が環境学習を通じて、祖父母や両親にごみの分別の話をするのは、非常に効果的であると思われるので、そのような意味でも、小学生を対象にした環境学習は、今後も推進していただきたいと思います。

(副会長)

環境について2点ありまして、1点目は、この前、地球温暖化の防止の研修を受けてきたときに、地球温暖化のDVDを観させていただいたのですが、農産物をどう適応させていくかという話の中で、徳島県の名産である「すだち」が、今、宮城県で育成実験されていることが紹介されました。もし、そこで「すだち」が作られるのであれば、徳島県はどうなるのだろうかとの心配から県の方に確認したところ、地球温暖化に対応するため、そのような実験を行っているとの回答でした。異常気象については、皆さんも感じているとは思いますが、それを圏域の経済や自分の生活に落とし込んで、今後10年間でどうなるのかを想像したとき、改めて、地球温暖化等についての情報提供や話し合いを行う場を設けていくことが必要であると感じました。

もう1点は、環境の教育にも関わってくるのですが、私が気になっているのが、「圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野」の人材育成のお金の使い方のことです。平成27年度で人材育成に使われているお金が約500万円で、それも、だいたい勝浦町、上勝町で他の市町村の方は、あまり使われていないですね。報告書にあるように、講演会の実施も非常に大事なことだとは思いますが、本当に行政職員に必要な知識等を植えつけるために、個々に対する教育にもお金をつけていただきたいと思います。

例えば、以前にも言ったかもしれませんが、徳島県では研修の一環として、新規採用職員が県内のNPO施設へ見学に行くという取組を行っています。しかし、圏域内の市町村の職員同士が、各市町村の壁を乗り越え、実績を上げているNPO等の現場を見に行くという事はあまりされていないと思います。上勝町はごみの分別で有名だと言われてはいますが、分別を分かっていない職員が結構います。多分、どこの市町村も同じで、自分の自治体の取組のことを知らない人は多いと思います。実は、徳島県には、全国から視察を呼び込めるような取組がたくさんあるにもかかわらず、徳島県内の職員がその取組について知らないのであれば、それはすごくもったいないことだと思います。

人材育成事業の中で、行政職員の方々が、各市町村のそれぞれの良い取組を見る機会を設けることで交流を深めていただきたいと思います。もし、そのような調整は、非常に時間とお金がかかることで壁が高いというのであれば、大学の力を借りるなどして、交流を推進していくということも、ぜひ、検討していただきたいと思います。

(委員)

各市町村では、苦勞しながら何か良い特産物はないかと模索されており、そのような中で、上勝町の葉っぱビジネスがニュースで取り上げられ話題になるなど、徳島県も捨てたものではないなと思っています。

板野町でも何かできないかということで、前回は紹介させていただきましたが、板野町の女性の会が、人参エキスのハンドクリームやドレッシングを作ったりしています。ただ、板野町は、山でもないし、街でもないし、中途半端な所です。だから、いつも、勝浦町や上勝町、それに、神山町をみてすばらしいなと思っています。その土地に良い指導者がいる所はものすごく伸びています。

この徳島東部12市町村のうち6市町村に四国八十八箇所の札所があります。四国遍路を世界遺産にという運動が起こっている中、札所で何か出来ないかなといつも考えています。板野町には3番、4番、5番と3つの札所があります。外国人の歩き遍路の方もたくさんいらっしゃり、お接待を通じて色々な人との出会いがありますので、そのようなところを生かして観光の面で活性化できないかなと考えています。

(委員)

徳島県で定住自立圏と言え、この徳島東部地域の他に、阿南市、那賀町、美波町で締結している定住自立圏があります。せつかくの場ですので、阿南の定住自立圏について、取組、動向等の情報が分かりましたら、参考までに教えていただきたいと思います。

(事務局)

阿南市、那賀町、美波町の定住自立圏の共生ビジョンにつきまして、平成23年の9月時点の資料でご説明させていただきますが、ビジョンの期間は平成28年度までとなっております。また、『住む人、来る人の「心」をつむぐ、やすらぎと活力の「光」あふれるネットワーク』をビジョンの将来像としております。さらに、具体的な取組内容でございますが、連携事業数につきましては40事業であり、その中で、徳島東部地域にない事業といたしまして、「田舎暮らし体験プログラムの連携体制整備事業」、「野球のまち阿南推進事業」などがございます。

(委員)

病児・病後児保育の連携を11市町村まで拡大していただくことは非常にありがたいですが、この際、0歳児の子育て支援を前端的に打ち出して、この徳島東部地域に住めば得だと言われるようになっていただきたいと思います。

ところで、今、フィンランドで実施されている、「ネウボラ」と言って、プロのアドバイスを受けながら産前産後からの切れ目のない支援が受けられる制度が注目されています。また、お母さんたちは、産後、どこに行けば働きやすいか、どこに住めば子育てしやすいかなどを考え、仮に、突出して良い地域であれば、そこに引っ越ししたりもします。0歳児の子育ては、働いている方、在宅の方も含め、子育てする人すべてが通過することです。その時に子育てする環境が整っていれば、また子どもを産んでみたいと思うし、そこに住み続けたいと思うようになるのではないのでしょうか。ちなみに「ネウボラ」は、少子化に歯止めをかけるということで、日本全国で広がっています。

この12市町村で、子育てについての切れ目のない支援を打ち出せば、子育て世代の方たちが、ここで住もう、この町に住んで良かったと思うようになるし、定住自立圏の認知度も上がると思います。

今、鳴門市が「鳴門市版ネウボラ」を立ち上げて子育て支援の充実を図っていますし、徳島市では「ママに安心ヘルプ事業」で産前・産後の家事や育児支援を行っています。そのような取組を12市町村で連携して実施できるよう、思い切ってメスを入れていただかないと、今の定住自立圏の取組では、子育て世代には響きにくいのかなと思います。この12市町村に引っ越してきたいという声上がるようになることを願っています。

(会長)

だいぶん意見も出尽くされ、時間も押し迫ってまいりました。

本日予定しております議題は、これで一応終了とさせていただきますと思います。長時間にわたり会議を進めてまいりましたが、観光・産業・医療・福祉・教育と幅広い分野から有意義な意見をいただきまして、感謝をいたしております。

1つ私の方からお願いしたいことは、今日欠席の5名の方は、徳島をリードする方ばかりです。今後、欠席の方には、簡単で構いませんので、専門の分野の視点から、このビジョンについてのコメントをいただけるようにご配慮いただけたら、よりこの会も充実したものになるのではないかと思いますので、ご一考いただけたらと思います。

6 閉会

(徳島市企画政策局長)

本日は、貴重なご意見・ご提言をいただきましてありがとうございます。委員の皆さまの熱い想いを感じました。いただきましたご意見・ご提言につきましては、今後、新たな共生ビジョンの取組において、検討を進めてまいりたいと考えております。

それに加えて、先ほど具体的な数字というところで、雇用創出等のご質問がありましたが、それらにつきまして、整理させていただきたいと考えております。

委員の皆さまにおかれましては、引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願い申しあげ

ます。

(事務局) 「会議録の公表」に関して報告

(会長)

ただいまの件につきまして、委員の皆さまお手数ですが、ご確認をお願いいたしたいと思
います

以上をもちまして、第6回徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン懇談会を閉じたいと思いま
す。本日は、皆さん、長時間にわたりありがとうございました。

以 上